



【神を欺く事がないようにさせてください。】

聖書:使徒の働き4:32-5:11 暗唱聖句: エペソ人への手紙4:2-3

説教者: 鄭南哲牧師

人間の髪の毛はとっても不思議です。髪の毛一本あれば、この人がどんな薬物を服用したのか分かるし、拒食症(きょしょくしょう)や暴食症(ぼうしょくしょう)のような食餌障害(しょくじしょうがい)の原因も分析できるのだそうです。今日、みなさんが食べた食べ物は6日後にはひげに蓄(たくわ)えられて表れるそうです。食事だけではなく、いまだどれだけストレスを受けているのかも髪の毛に表れるのだそうです。とっても大した物でなさそうな髪の毛一本の状態からも、その人の状態がよく把握できるのだそうです。髪の毛一本からも何を食べたのか、健康の状態はどうかのかが分かると言うことを聞きながら、我々人間を造られた神様の繊細な御手を感じることができます。この細い髪の毛がその人の状態を日記のようにすべて記録していたのです。髪の毛だけではなくどこかに自分の生きていた痕跡が残るということを見ながら、神様の御前でもっと気をつけなきゃと思わされました。髪の毛がその人のすべての状態を表すように、神様の御前で我々の信仰もさらけ出される時が来ると思います。

今日の聖書の本文に出ているアナニヤとサツピラ夫婦はAD30年頃のエルサレム教会の信徒たちでした。五旬節聖霊の臨在以来、エルサレムに福音が力強く伝わり、多くの人々がイエス・キリストを信じ、受け入れて初代エルサレム教会が立てられました。エルサレムの初代教会は地上のすべての教会のお手本です。なぜなら32-34節をみると、初代教会は聖霊に満たされた共同体だけではなく、聖霊の導きに従って一番理想的な天国の姿を表していたからです。この教会のクリスチャンは一つの心となってイエス・キリストの福音を伝え、主の教会のために自分の財産を分け与える共同体が自然に作られ始めました。エルサレムの教会のクリスチャンたちは財産を所有していたのにもかかわらず、教会からの強制ではなく、‘それぞれの必要に応じて’(2:45)自ら自分たちの財産を処分して献金しました。教会の中で救済への必要や特別な必要があったときともに祈っただけではなく、経済的にも一つとなって献金に参加しました。ところが、聖霊に満たされて教会が恵みを受け、一つとなるあたたかい雰囲気の時、衝撃的な事件が発生します。アナニヤという名前の意味は“主は義なる方”で、妻のサツピラの名前の意味は美しい(サファイア)というすばらしい意味を持っていましたが、彼らは名前のおりには生きられませんでした。

1. 本文の説明

このアナニヤとサツピラ夫婦の事以前に、まずバルナバ(意味: 慰めの人、権威ある人)という人が登場します。エルサレムの初代教会の人たちの中で、バルナバという人はとってもすばらしい信仰の人でした。彼は使徒でもなく、立ち遅れてイエス様を信じましたが、使徒たちに認められ、信頼された人でした。多くの人々はバルナバの信仰と人格を尊敬していました。そのようなバルナバはある日決断し、主の教会の働きと回りの貧しい人たちのための救済の働きのため自分の土地を売ってそのすべての代金を主の教会に捧げました。その事に関してただ36-37節だけに短く書かれている事を見れば、きっとだれにも知られないようにこっそりと捧げられたと思わされます。そのためさらに教会の中ではバルナバに対する賞賛の言葉が多くなったはずですが。

このバルナバの姿を後ろで見ていたアナニヤとサツピラ夫婦も自ら自分たちの土地を売って主の働きのためにすべて献金しようとしていました。ところが、この夫婦は実際土地を売ってもらった相当なお金を見た瞬間、この全部を神様に捧げるのに惜しくなったのではないかと思います。実は惜しくなる事も人として十分理解できます。昔も今も土地という物は人に一番大切な財産なのに、それをすべてささげるといことはよほどの信仰ではできない行動です。初代教会ではすべてがそうではありませんでしたが、自分の財産全部を献金する方々もいました。教会とはこのような献身者たちによって造られるのですね。ところが、信仰者として強制規定でもなく、だれかから背中を押されてやったことでもないのに、アナニヤとサツピラは教会の前でうそをついてしまいました。ペテロがアナニヤに聞きます。“アナニヤ。これが全部なのか?” “そうです。”するとペテロは怒ります。3節に“アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いているのか。”原語の聖書を読んでみると、アナニヤはこの言葉を聞きながら、恐ろしくそのまま使徒の前で倒れ息が絶えてしまいました。というのは彼の死は偶然ではなく、聖霊の神様を欺き、だまそうとしたからその罪に対する神様からのさばきだったのです。三時間後、この出来事を知らないアナニヤのサツピラがペテロにきました。ペテロはサツピラにも同じ質問をし、サツピラも自分の夫と同じく答えました。結局アナニヤの遺体を埋葬して帰ってきてはもう一度サツピラの遺体も埋葬しなければなりませんでした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! この出来事を説明するには簡単ではありません。神様の裁きがあまりにも過酷ではないかという思いもありますね。一部を隠したとしても、まったくささげてない人々もいるのに、夫婦を死で終わらせるのは残念ではないかという思いもあります。今日の本文を通して神様は我々に何を語ろうとしておられるのでしょうか。?

2. 本文からの教訓

<1. 教会をだますことは聖霊の神をだますことです。>

アナニヤとサツピラの姿はこれです。バルナバの献身をながめながら信仰的に感動とチャレンジを受けます。そして、バルナ

バのように献身し、捧げようとする。きっと聖霊様もアナニヤ夫婦のこの姿を喜んでくださったと思います。しかし、アナニヤの献身にサタンが介入し始めます。サタンは決してイエス・キリストを信じる信徒たちがすばらしい信仰者として成長するのを放って置く訳にはいきません。なんとかして献身の機会を、霊的信仰の成長の機会をねらって妨げます。わなを置きます。そして、わなにかからせます。そして、献身しようとする信徒の心を挫折させます。落胆させます。これがサタンのしわざです。サタンは一瞬も休みません。神様の民が神の祝福を受けないようにと虎視眈々(こしたんたん)狙いながら待っているのです。そういうわけですから、サタンが我々の心と意思を捕らえないように我々こそ目を覚ましていなければならないのです。聖書は目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っていると教えています。

アナニヤとサツピラが神様の前ですばらしい霊的決断をもって献身しようとした時、サタンが彼らの心に訪ねて来ました。そして、彼らを惑わします。アナニヤも自分の持ち物を売ってその代金を手に入れました。物を見れば所有欲が出るでしょうか。手に入れたお金に対して欲が生じ始めました。このお金ならもっと素敵なお洋服を買えるし、このお金ならしばらくやりたい放題やれるし、このお金なら余裕のある暮らしができるはず。。。 ” こういった思いが彼らを占め始めたのでしょうか。

教会でバルナバをみれば彼の信仰と献身に頭がさがり、もっと見習いたくなる心もあったはず。ところが、お金を見たら心が揺らぎます。このお金を全部ささげることが惜しくなりました。‘いのちのようなお金をどうやって神の教会に全部捧げる事ができるのか。これを全部捧げてしまうと、自分たちは何を食べて、どう生きるのか。。。’ これから先のことを計算してみます。突然、いろんな面においてお金が必要となりました。

アナニヤとサツピラはその一部を残しておこうと決めました。そして、残りの一部を捧げようとした。しかし、ちょっと考えてみたが、バルナバは全財産をささげてすべての信徒たちに賞賛を受けているのに、自分は全財産ではなく一部だけささげたことにより、バルナバが受けている賞賛を受けることは無理っぽい。自分の対面は地に落ちそうです。教会からもバルナバほどの評価はともかく非難さえされるのではないかと。社会的な地位もあり、自分の名声もあるのだからそういうわけにはいきませんでした。戸惑っているアナニヤとサツピラの心にサタンが入りました。“だれが分かるの？ 全部をささげるといって、一部は隠しておけばいいんじゃないか？ あなたがたが言わないのに、教会で知られるわけがないでしょう！ そのようにしておけば、献身もして、教会では名声も得ることなんだから一石二鳥(いっせきにちょう)ではないか？ そのうそだってだれか損を受ける人っているの？ だれも損を受ける人はいないから大丈夫のはずだ。きっと神様もささげないよりかはいくらでも捧げることにどれだけ喜ばれるか！ だからそんなうそは大丈夫だよ” アナニヤとサツピラの思いがここにまでたどり着くと彼らの悩みは終わりました。持ち物を売ってもらったお金の一部は隠しておきました。そして、一部を使徒たちの足元に置きました。

この時のペテロの話をご覧ください。3-4節です。“アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。” 使徒ペテロはアナニヤが聖霊を欺いていると言っています。アナニヤがやったことはなんですか。代金の一部を隠しておいただけです。そして、全部を捧げるのだと言っただけです。それがだれかに損を与えたわけでもありません。なのに、ペテロは聖霊を欺いたのだと言っているのです。アナニヤは使徒たちとペテロをだまし、教会の信徒たちをだまそうとしただけです。なのに、ペテロはペテロは聖霊を欺いたと言いました。なぜでしょうか。それは神の教会を欺いたからです。教会の運営者は聖霊様です。ですから、教会をだますことは聖霊をだますことになるのです。私たちはこの事実を注意深く考えなければなりません。

神様がたたせ、イエス・キリストが主となり、聖霊が働いておられる神の教会を軽く考えてはいけません。神様はご自分の御名と栄光と権威を主の教会に置かれました。ですから、教会を大切に、尊重しなければなりません。恐れ多くも神の教会に向かって偽(いつわり)りをいい、けなすことは神様の怒りを招くことであることをこれらのことをとおして知り、気をつけなければなりません。特に、神の教会において我々の心の思いと意図と中心まで見抜いておられる聖霊の御前でいつも正直で、隠すことなくふるまわなければなりません。

<2. 主の教会の純粋さを守る神様>

まず、我々が覚えることは、この当時は主の教会が地上に誕生したばかりの時でした。種が芽生え始めたのと同じです。そういうわけで教会は聖霊の満たしとともにきれいになければなりません。アナニヤとサツピラの出来事には初代教会の純粋さを保とうとしておられる神様の強き意志が表されています。

実際、アナニヤの罪とは表面的にはお金をいくらか隠して、使徒たちをだます程度しか見えませんが、その本質は3節にも表されているように聖霊を欺いたのです。そして、彼の妻であるサツピラも夫がやることをとめないで、黙認(もくにん)した罪しかないように見えますが、9節の御言葉のように主の御霊を試みた罪を犯したのです。アナニヤとサツピラの行動はまさしく、始めに主の教会に臨在された聖霊に挑む恐ろしい犯罪行為(はんざいこうい)だったのです。きよめられた主の教会からエルサレムと全ユダヤとサマリヤと地の果てにまでキリストの福音が広がるはずなのに、はじめの頃から聖霊の御業を乱す不純物(ふじゅんぶつ)が入るのを神様は決して赦す事が出来ませんでした。ですから、この出来事を個人への裁きよりは主の教会を試みるサタンのしわざに対する神様の断固(だんこ)とした裁きであるとみられるのです。

それじゃ、アナニヤとサツピラは救われたのか、救われなかったのかそれに対しては知ろうとしないで下さい。それは神様のみをご存知です。神様の主権によるものです。いくら救われた人だとしても聖霊の働きを妨げ、主の教会のためには赦せないと思われた時は目に見える懲らしめをなされます。ここで、一つ心にとめるべきことがあります。聖霊は昔も今もとっても敏感であることです。私たちがイエス様を信じてから犯しやすい罪の一つは聖霊の御心を消してしまうことです。聖霊が自分に語ってくださるのだと分かったらすぐ従わなければなりません。あーいった、こーいった言い訳をしないで、後回しにははいけません。なぜ多くのクリスチャンが今日も働かれる聖霊の恵みを受けられないのでしょうか。神様が恵みを与えようと呼んでいるのに、聖霊の御心を無視し、自分の生きたいままやろうとするからです。

<3.聖霊に満たされた、純粋なエルサレム初代教会の特徴>

最後に、このようにアナニヤとサツピラの悲しい出来事もありましたが、それとともに大切な初代エルサレム教会のすばらしい特徴も覚えておきたいと思えます。聖霊に満たされ、純粋だった初代エルサレム教会にはいくつか特徴があります。ただ、異言(いげん)を語り、いろんな奇跡が起こったことなどは聖霊に満たされたほんの一部だけです。実際、聖霊に満たされたといっただけならず、このような御業がおこることもありません。初代エルサレム教会をとおして聖霊に満たされた主の教会の特徴はなんだったのか見てみたいと思えます。

まず、一つとなることに卓越(たくえつ)しました。使徒の働き2:46節に“心を一つにして”と4章32節“心と意思を一つにして”は同じ意味で初代エルサレム教会のすばらしい姿を表してくれます。

聖霊は一つにさせてくださる方です。すると聖霊に満たされた初代教会は努力もせず、自然に一つとなったのでしょうか。決してそうではなかったと思えます。

エペソ4章2-3節をみると、“謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。”エペソへの手紙の御言葉のように聖霊の一つとされるのを願う人はまず謙遜で、柔和で、寛容で、愛を持たなければなりません。この四つこそが我々が一つとなるために示し、守るべき基本原則だと信じます。

教会において聖霊の一つとされることにしきりに妨げとなる人はすでに聖霊の充満から離れた人です。主の教会において一つとなるためになんの努力もなく、どんなに祈りも熱心に、奉仕も熱心にしたとしてもその人は聖霊の御心に反する人になります。なぜなら聖霊は教会が一つとなる事を何よりも切に望んでおられるからです。

謙遜でなければ一つとなりません。ほかの人との関係において柔和でなければ一つとなりにくいです。ほかの人に対して耐え忍ぶ努力なしにはできません。愛で覆って赦す心がなければできません。このような熱心さがなければ、主の教会は一つとなることはできません。ですから、我々の心に少しも他の兄弟、姉妹への批判や、教会の様々な問題に対して非難する傾向があるなら、自分の信仰における赤信号(あかしんごう)のサインだと思ひましょう。‘あ、今自分はあぶないんだ。一つになる事を臨まれる聖霊の神の御心に逆らう罪を犯してしまわないよう気をつけよう’と見分けるべきです。

聖霊充満な教会のまたもう一つの特徴は、みんな聖霊にあって一つになる事に努力しただけではなく、喜んで自分の物を分け与え貧しい人々とともにした教会でした。自分の物だとわしづかみにするひとがいません。どうやってこれが可能だったのでしょうか?すべてが主からしばらく預かったものとして、結局はすべて主のものだと信じていたからです。アナニヤとサツピラもこのように神様の主権と自分たちはただの管理者であることを最後まで覚えていたなら、サタン(サタン)の誘惑にも揺るがされず、最後まですばらしい信仰と献身からはずれることはなかったと信じます。自分のもっているすべては主から来たのであって、我々はただ主のものを預かった管理者であることを忘れてはいけません。

聖霊に満たされていた初代エルサレム教会は何よりも大胆な主の証人となっていた教会でした。使徒たちは主からいただいた力によってイエス様の復活を証し、聖霊に満たされていた信徒たちも福音を大胆に伝えました。こんにちでいうと牧師と信徒問わず、教会全体がイエス様を伝える大胆な証人となったのです。

このように聖霊に満たされた理想的な教会とは、聖霊にしたがって一つとなるように積極的に努力する教会、愛の奉仕をする教会、イエス・キリストの御名を恥ずかしながら、大胆に伝える教会でした。

最後に、今日我々はアナニヤの出来事を通して我々の心と意思と意図すべてをご存知である聖霊がいまもともにおられることを恐れる心で、そしてもう一方では同じ罪を繰り返さないように我々のために与えられた御言葉を感謝をもっていただき、行うクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますよう我々の主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!!!!